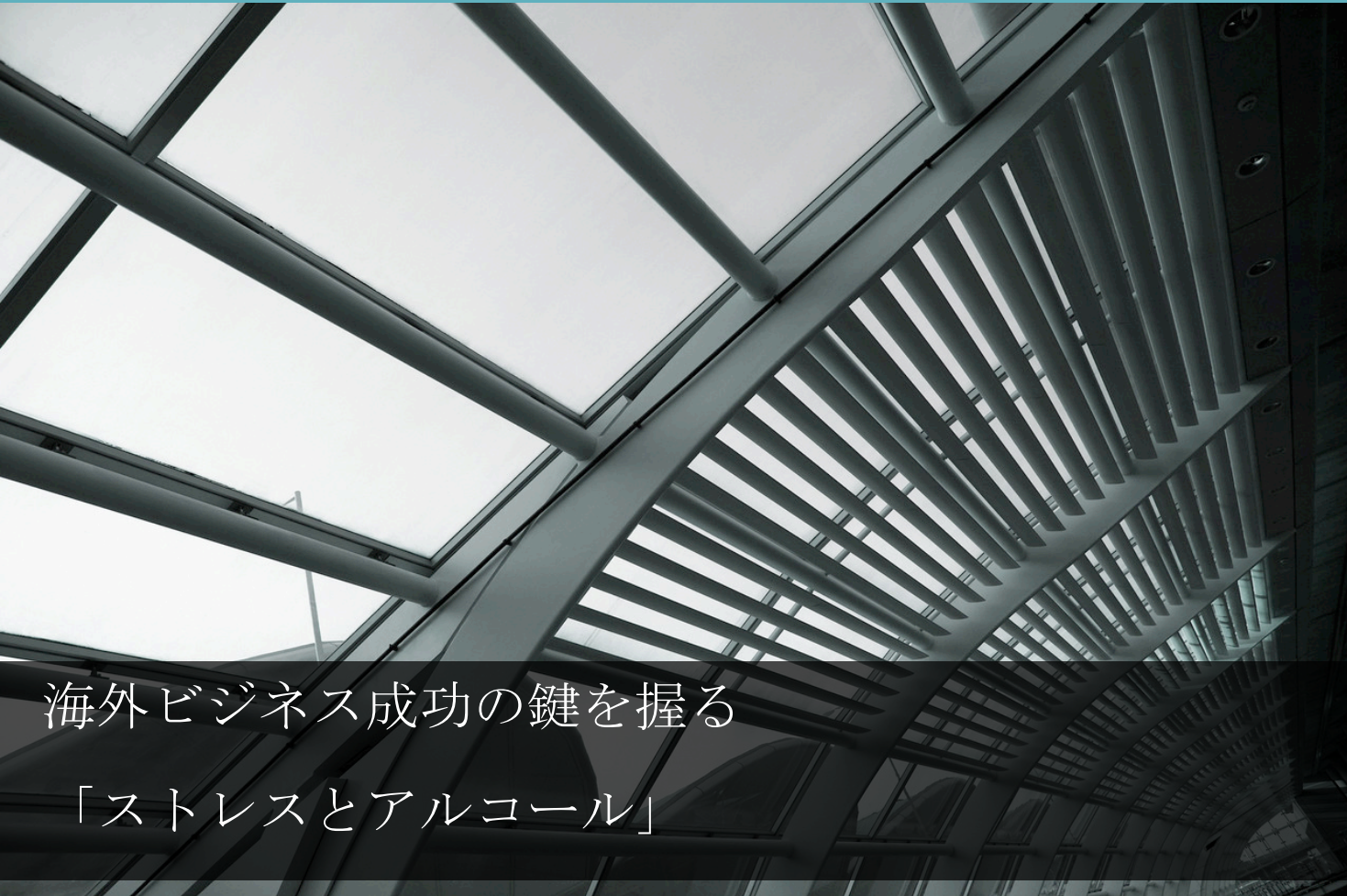




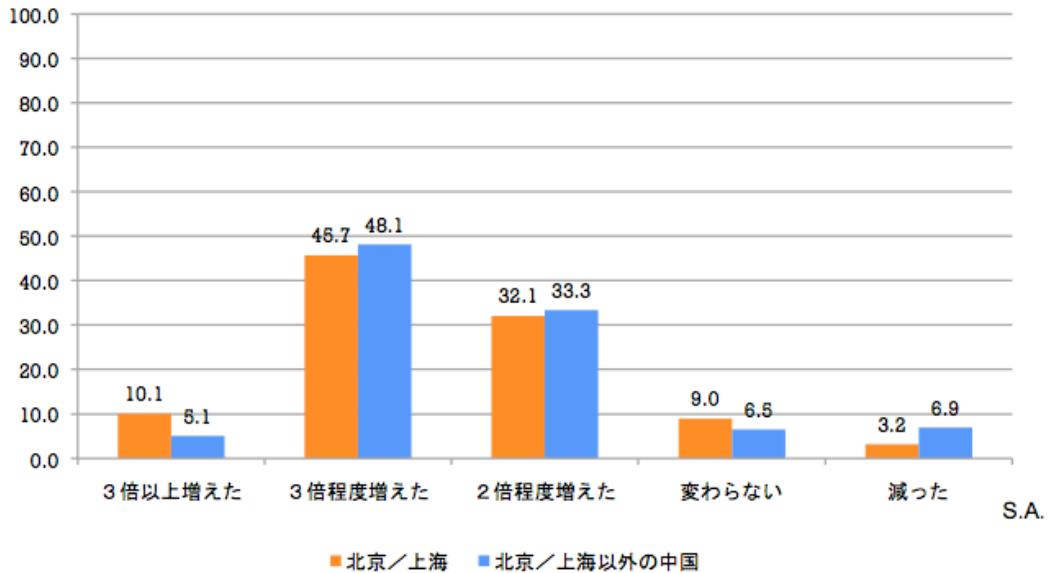
海外ビジネス成功の鍵を握る 「ストレスとアルコール」

第7弾

グローバルIQ から見たストレス解消力

株 式 会 社 M D . ネ ッ ト

1 週間の飲酒量は赴任後増えましたか？



MD.net 調査 2011

MD. ネットが昨年実施した、中国に赴任する方々の飲酒状態に関する調査によると、中国への赴任後、酒量が3倍近く増えていることが明らかになった（図1）。

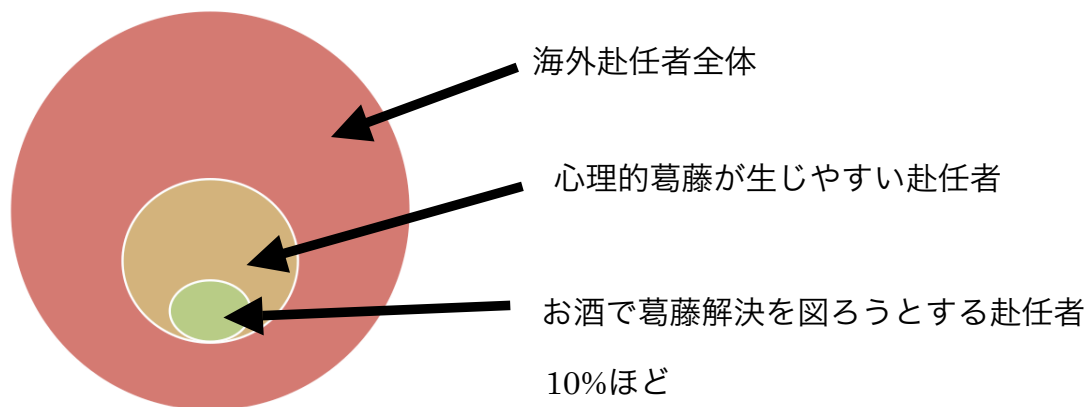
結果はこちらを参照ください。<http://www.md-net.co.jp/info-pdf/report1.pdf>

中国に限らず、お酒を飲む機会が得やすい（店がある、事業所として飲む機会が多い等）東南アジアや一部のヨーロッパでも同様の結果であった。

MD. ネットでは、グローバル IQ®や m-Doc（海外駐在員のメンタルヘルス診断）でアルコールチェックをあわせて行っているが、それらの結果ではアルコール乱用 気味の状態にある海外勤務者が10%程度存在している。アルコール乱用気味というのは、単にお酒の量が多いということではなく、飲酒が葛藤や不安、緊張を解決する手段となっている状態だ。従って、「抑うつ症状」が必ず伴っている。

日本ではそれほど顕在化していないが、海外ではビジネスマンのアルコール、ドラッグの問題は深刻だ。「そういう人はそもそも働いていない」「お酒臭い人は周囲にいない」と思うかもしれないが、上記の通り、乱用気味な状態は、お酒臭いわけではないし、行動が不審なわけでもない。その点が周囲からわかりにくく、本人も病状がないままに症状が悪化してしまうのだ。





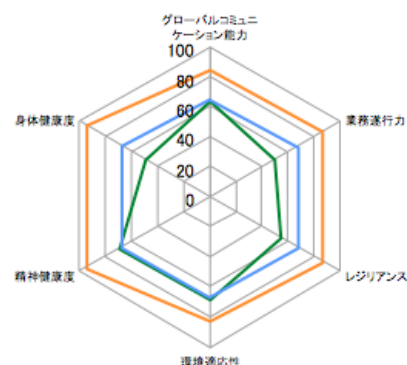
感情が乱れやすく、複雑な課題に混乱し、内面に葛藤を生みやすい傾向は一目瞭然で、抑うつ傾向や、飲酒状態にも傾向が現れていれば、将来的にアルコール問題の発生リスクが高いということになる。リスクが見えるということは事前に予防が可能だということである。

本人へのアドバイスや会社からの健康指導、また業務上のサポートによって、問題の発生は未然に防ぐ事ができる。

年齢とともに、アルコールの処理が遅くなり、翌日に残りやすくなる。身体がだるく、思考力も低下する。また、何より、中途覚醒が生じ、睡眠不足で、疲労の回復が遅れる。結果、パフォーマンスのダウンにつながる。

作業が遅くなる、間違える、集中できない、頭が冴えない、やる気がでない、等。見えないが、実はすべてが数字に反映されている。

ビジネスマンにとって、健康は基礎能力である。



グローバル IQ の結果を見ると、そのアルコールトラブルリスクがわかる。事業リスクのアセスメントとして、また、本人の将来の健康のためにも、その測定は有意義だ。

「海外赴任者のアルコール問題対策」について解説したレポートも参照ください。

http://www.md-net.co.jp/info-pdf/roumujijo_20120306.pdf

海外勤務適性検査 グローバル IQ はこちらをご覧ください。



<http://www.md-net.co.jp/service/giq.html>